

かるた教室（出合小学校）

山陽小野田かるた協会の協力を得て、出合小学校4年生が競技かるたについて学びました。百人一首の歴史や五・七・五・七・七からなる短歌、競技の仕方等について教えていただきました。次に、児童は2人ずつ向き合って、札を取る練習をしました。読み札の出しを聞いて取り札を見つけられるように、上の句と下の句を結びつけて覚える方法を繰り返し練習すると、だんだん速く取れるようになり、おもしろさを実感した様子でした。山陽小野田市の特色でもある競技かるたに関心をもつ子どもが増えることが期待されます。



クリーン作戦（小野田中学校）

小野田中学校では、毎月1回放課後に生徒会が中心となって、全学年から参加者を募りクリーン作戦に取り組んでいます。この日は、約50名の生徒が参加し、2グループに分かれて火ばさみやゴミ袋を持って学校周辺や国道沿いの歩道に落ちているペットボトルや紙くずなどを拾いました。「ゴミを見つけることがおもしろい」「地域からゴミがなくなると気持ちがいい」「地域の役に立っているかな」など、額の汗をぬぐうこともせず語った生徒の笑顔がとてもさわやかに見えました。



歴史民俗資料館の学芸員による郷土の歴史学習（高千帆小学校）

高千帆小学校が創立150周年を迎えるにあたって、4年生が郷土の歴史（高泊開作）について歴史民俗資料館の学芸員から話を聞きました。高千帆という地名の成り立ちや高泊開作ができるまでの工程、施設などを写真や地図、古文書等を通して学習しました。今後、子どもたちは、耳から学んだことを実際に目で確かめるフィールドワークを行う予定です。そして、11月の参観日に保護者や地域の方に発表することになっています。こうした学習を通して、児童には先人の知恵や努力を知って故郷への愛着心を育んでほしいものです。

